

単元名	保健「けがの防止」	配当時間	5時間
単元の目標	(1) けがの防止について関心をもち、自ら健康で安全な生活を実践するため、進んで学習に取り組もうとする。 (2) けがの防止について、課題の解決を目指して考え、判断することができる。 (3) けがの原因とその防止について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につけることができる。		
単元を構想する上での留意点	本単元では、学校での事故や交通事故などによるけがの防止には、周囲の危険に気付いて的確な判断のもとに安全に行動することや、環境を安全に整えることが必要であることを理解できるようにさせる。また、けがの多く発生する場所の状況を実地調査したり、けがの処置の実習を取り入れることでより実践的に理解していく。		
単元展開例			
準備	けがに関する自校資料、擦り傷の手当実習用の薬品及び器具、校区地図、交通事故の新聞記事 など		
学 習 活 動		留 意 事 項 な ど	
1～2 学校生活でのけがの防止について理解する。 ○教科書P.2～3の挿絵をもとに、けがをしそうな子を見つけ、その原因について話し合う。 ○学校でのけがを防ぐにはどのようなことに気を付ければよいか話し合い、単元の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> けがの防ぎ方について考え、けがの簡単な手当ができるようにしましょう </div> ○けがの実態について知る。 ・どんな場所で ・どんな時間に ○学校の中でのけがを防ぐには、どうすればよいか話し合う。 ・安全な行動 ・環境整備 ○学校の中での安全について調べる。 ○学習のまとめをする。		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の挿絵を見て、危険な行動をしている児童を で囲ませ、意欲化を図る。また、なぜ危険なのかについても考えさせる。 ・教科書P.4の3つの例についてけがを防ぐために、どのようなことを気を付けたらよいか考えさせる。 ・教科書P.4のグラフから一般的な傾向をつかませる。 ・学校の実態と日ごろの生活の様子をもとに、グループで考え発表させる。 ・学校の中のけがは、人の行動や環境がかかわっていることを理解させる。 ・教科書P.5「やってみよう」で学校環境を実地調査しチェックさせることでより実践的な理解を深める。 ・安全な行動を心がけるとともに、周囲の環境を安全に整えることが必要であることに気付かせる。 	
3 軽いけがの手当について知る。 ○学校でのけがの経験について話し合う。 ○けがをしたときの手当の仕方について知る。 ・擦り傷 ・打撲 ・切り傷 ・やけど ○手当の仕方を実習する。 ○学習のまとめをする。		<ul style="list-style-type: none"> ・児童が発表したけがを種類別に分ける。 ・教科書P.7のグラフから一般的な傾向を読みとらせる。 保健室の資料があれば比較させてもよい。 ・けがの種類に合わせた手当の仕方があることを知らせる。 ・教科書P.7「やってみよう」の擦り傷の手当の仕方を実習させる。 ・軽いけがの場合は、自分で手当をしてから保健室でみてもらうとよいが、大けがや頭を打った場合には、すぐ近くの大人に知らせることが重要であることを押さ 	

- 4 地域での事故の防止について知る。
- 教科書P.8の挿絵をもとに、けがをしそうな子を見つけ、その原因について話し合う。
 - 地域の中で事故につながりそうな場所がないか地図にまとめる。
 - ・見通しの悪い交差点
 - ・工事現場の周辺
 - ・転落事故が起きそうな水辺 など
 - 地域には、事故を防ぐためにどのような施設があるか考える。
 - ・立入禁止の看板 ・スロープ など
 - 学習のまとめをする。
- 5 交通事故の防止について知る。
- 交通事故にあったこと、見たり聞いたりした経験を発表する。
 - 交通事故について、死者数や小学生の事故原因について調べる。
 - 自転車に乗るときの注意について話し合う。
 - ・一旦停止をする
 - ・夜はライトをつける
 - ・2人乗りをしない
 - ・ヘルメットをかぶる など
 - 事故を防ぐための安全な環境作りにはどのようなものがあるか考える。
 - ・ガードレール ・横断歩道 ・歩道橋
 - ・盲人用信号 ・交通標識 など
 - 交通事故を防ぐために必要なことについてまとめる。
 - 単元のまとめをする。

- える。
- ・教科書P.8の挿絵を見て、危険な行動をしている児童を で囲ませ、意欲化を図る。また、なぜ危険なのかについても考えさせる。
 - ・危険と思われる場所を校区地図に記入させる。
 - ・この時間だけで調べるのではなく、登下校時などに気付いた事柄についても校区地図にかき加えさせる。地図は見やすい場所に掲示しておく。
 - ・教科書P.9の写真を参考にさせる。
 - ・地域での事故やけがも、人の行動と環境が原因で起きていることを押さえる。
 - ・児童から事例が出ない場合は新聞記事などを提示し、関心を高める。
 - ・教科書P.10の挿絵やグラフをもとに考えさせる。
 - ・どんなときに一時停止をしないで飛び出してしまうのかについても、考えさせる。
 - ・教科書P.11の「やってみよう」でどんな危険が考えられるか予想させる。
 - ・自分が自転車に乗るときのことを思い出させ、教科書の絵と比べさせながら考えさせる。
 - ・「もし『ガードレール』『横断歩道』などの安全施設がなかったら？」と問いかけ、必要性をつかませる。
 - ・交通事故を防ぐには、交通規則を守って、安全な行動をとることが大切であることを気付かせる。
 - ・「けがの防止について」学校や家庭で自分にできることを確認させ、実践する意欲を高める。

評 学習したことをまとめる活動を通して、「知識・理解」を評価する。